

規模拡大と6次産業化による経営安定化 ～農業生産法人 有限会社 大嶺ファーム（沖縄県宮古島市）～

経営体の概要

事業実施前

基幹作物：すいか（0.5ha）
マンゴー（0.3ha施設）
経営面積：0.8ha

現在：令和6年

基幹作物：マンゴー（2.0ha施設）
観光用果樹・花卉（0.5ha施設）
経営面積：2.5ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

●かん水に際し、タンクに水を汲んで運搬するなど、かん水作業に多大な労力を要していた。

【現在】

●かんがい施設の整備により農業用水が安定的に供給されたことで、かん水作業の省力化が図られた。



タイマーによる
かん水も可能なハウス

営農改善、経営転換等のポイント

①経営規模の拡大と品質管理

事業により農業用水が安定的に供給されたことで、事業実施前に比べ、かん水作業が省力化されたことを契機に経営規模の拡大を図るとともに、マンゴーを中心とした経営に転換した。

マンゴーの栽培管理は、雇用による労働力確保により、人手をかけて手入れすることで、品質を確保している。また、ハウス全棟でかん水施設が整備され、ハウス内の高温対策として、タイマーを利用したかん水を実施するなど、近年の異常気象にも対応できるよう工夫している。



マンゴー園の様子

②流通・販売の工夫

収穫したマンゴーは、スーパー、百貨店等との契約販売のほか、近年、その8割をインターネットで販売し、売上額は年間3千万円を超えている。

また、バナナ、パパイア、ドラゴンフルーツ等の果樹や、ブーゲンビレア等の花きの栽培園地を観光農園として観光客等を受け入れるほか、農園内にフルーツパーラーを開設し、自家農園の果実を使ったスイーツや、ジャム等の加工品を販売するなど、6次産業化にも取り組んでいる。



加工・販売所の様子

③農園の継承と雇用確保

農園経営は息子、店舗経営は娘へ移譲し、営農のノウハウや技術を次世代へと継承している。

現在、約20名を雇用しており、人手不足を解消するため、言葉の壁はあるものの意欲の高い外国人労働者を採用するなど、安定した経営継続に向けた取組を行っている。

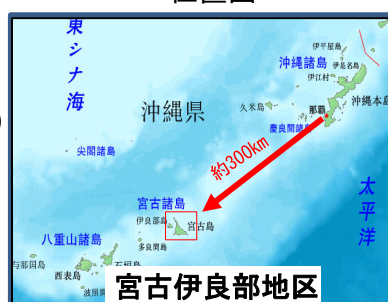


観光農園の様子

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：宮古島市
受益面積：9,156ha
事業期間：宮古地区（昭和62年度～平成12年度）
宮古伊良部地区（平成21年度～）
事業目的：畑地かんがい
主要工事：地下ダム2か所、副貯水池1か所
揚水機場1か所、用水路55.0km
水管理施設一式

位置図



<問い合わせ先>

沖縄総合事務局
農村振興課
企画指導官
電話：098-866-1652
（内線：83338）

（令和6年度調査時点）